

新宮山彦ぐるーぷ第1941回

行仙宿で奥駈縦走者支援と蜂の巣除去など

◇実施日；2017年08月12(土)～13(日)

◇参加者；梶野照雄、山本直子。(奥駈縦走・志岐 敬) 2名。

8月12日(土) 晴時々曇り

奈良の会友・志岐さんが9日～14日の日程で逆峯・奥駈縦走。

山本さんがその支援の為、行仙宿まで行かれるので、支援のお手伝いをする事になった。

11日の平治宿で、行仙宿小屋玄関上にある蜂の巣を取り除くよう連絡があったので、11日の帰りにドラッグストアでハチ用スプレー殺虫剤を3本購入して準備した。

山本さんとは、午前10時に大和上市駅で待合わせ。午前9時半過ぎに大和上市駅に着いたら、山本さんはすでに到着していた。国道沿いの吉野川には、川遊びの人がたくさんいて、仮設トイレも置かれていた。



登山口にて



きれいな形の蜂の巣



完全防備で

池原公園でトイレに寄り、11時半に登山口着、靴を履き替えモノレールを降ろす。第2ベンチまで上ると全身から汗が噴き出す。行仙宿到着後、荷物を降ろしハシゴを伸ばして、スズメバチの巣の状態を観察する。

直径約15cmのほぼ球体で、小さな穴が2カ所確認できた。スズメバチの出入りはないが、3匹のハチが周りを飛んでいた。5分ほど眺めていたが、ハチが出入りしている様子はなかった。昼食後、完全防備で屋根に上がる。スプレーを2本持って、1本は地上の山本さんに使ってもらった。



ハチ用スプレー噴射



薬剤充滿



巣が簡単に外れた

巣の直近に寄ると一匹が穴から顔を出した。すかさずスプレー噴射。周りを飛んでいた2匹もスプレーで撃退、巣の穴をめがけて数回噴射すると、中で暴れる音が聞こえてきた。液体が垂れ落ちるまでスプレーをかけると音はしなくなった。巣に飛んできた7～8匹もスプレーで殺し一旦下に降りた。

外した巣を入れるためのポリ袋と、巣が硬くて外れない時用にオノを持って再び上がる。巣に近づこうと進み始めるが、さっきとは違って、滑って進めなくなった。スプレーの溶剤が油らしく、

飛んで来るハチにも噴射したので、トタン屋根の広い範囲に油を撒いた状態になっていた。何とかハシゴまで戻り、倉庫からロープを出して東側へ投げてみるが、重くて向う側まで届かない。

山本さん持参の5mmΦロープをお借りして、先に木切れを付けて投げてみたら一発で東側に届いた。太いロープを引っ張り少し下の木に縛って、このロープを頼りに屋根を移動した。



取り除いた巣



このロープを使用



水10Lタンクを担いで

巣は柔らかくて簡単に袋に入れる事ができたが、ロープを掴んでいるため、残っている部分を削り落とす態勢がとれず、そのままにして蜂の巣除去作業を終えた。

汲み置きの水が少なかったため、10Lタンクを持って2人で登山口の水場へ降りた。

小屋に戻ると登山者2名が荷物を広げていた。白谷トンネル東口から登ってきて、今夜は宿泊し明日は行仙岳を越えて4時間北上して戻ってくる予定だそうだ。

お二人と話をしながら志岐さんの到着を待つ。17時を過ぎ、行仙岳まで迎えに行くか？と話していると、熊鈴の音が聞こえて志岐さんが到着、17時30分だった。

夕食は山本さんが用意してくれたスキヤキ、最後にウドンまであり満腹になった。午後10時に消灯して就寝。



再び行仙宿



本日の宿泊者



食事を終えた(志岐さん)

行動タイム

補給路登山口11:45→12:35行仙宿15:00→登山口の水場→16:00
行仙宿→22:00就寝

8月13日(日) 晴

午前5時前に起床し発電機を動かす。山本さんが作って下さったサンドウィッチで朝食。

同宿者二人が、6時前に行仙岳に向かって出発し、志岐さんは、6時ちょうどに玉置神社へと向かった。

午前7時から作業開始、少し薄い板を挽くつもりでチェーンソーを出してくる。

山本さんには管理棟の清掃をお願いした。板挽きの準備をしていると、山本さんが「管理棟にネズミの糞があるので掃除機を使う」と言うので、再び発電機を動かした。



志岐さん出発



スムーズに滑らない



管理棟を掃除機で

板挽きは、ガイドのㄥ×△材が湿気で膨らんでいて、金具がスムーズに滑らなくなっていた。おまけにチェーンソーの刃の切れが悪く、燃料と時間を無駄に費やすだけとなってきたので、2枚目を切ったところで終了した。



目立てか新品交換要



15mm薄くした



板2枚挽き切る

山本さんは小屋内の調味料なども調べて下さったが、クリープの袋に穴があったり、ポン酢のプラスチック蓋が食い破られたりで、ネズミの被害がかなりあった。持経宿とともにネズミの駆除をする必要があるようだ。

山本さんが水場を見たいというので2人で水場へ降りる。途中、台風5号で落ちてきたと思われる枯れ枝が多数落ちていて、その都度取り除きながら下る。階段を下りた辺りから水音が聞こえて、良く流れていることが判った。

水場に着いてビックリ！、真ん中に枯木が一本、水が溜まる所は、全て石で覆われて、奥まで靴を濡らすことなく入っている。最大の岩は60cmほどで200kgはあると思われる、手をかけてみるがびくともしない。2人がかりで石を下に放り投げて、水を汲み上げる深さを確保するのに30分かかった。

残りの石は大量で、奥が狭いので、全てを取り除くにはかなり時間がかかると思う。



水場へ降りる



落石で埋まっていた



最奥部分

日差しが強くなって小屋までの上りはキツイ、汗びっしょりで

小屋に戻った。



一つづつ投げ落とす



約25cmの石



水汲みのくぼみ確保

汗が引くのを待って、焼却炉に残っていた紙と可燃物のゴミ、取り除いた蜂の巣も一緒に燃やした。残っていたサンドウィッチを食べて12時過ぎに下山開始「きりの湯」で入浴し、さっぱりして帰宅した。今回は山本さんに大変助けられた。蜂の巣除去、水場の落石除去共に、一人では倍以上の時間がかかったと思うので、よくぞ居て手伝って下さいました、感謝したいと思います。

行動タイム

04:45起床・朝食→07:00掃除・板挽き08:30→休憩09:10水場へ
→09:27水場・落石除去09:49→10:15行仙宿12:10→12:45補給路
山口。
(記・梶野)

寄贈

山本直子；フライパン・30cm+ガス・カセットボンベ3本。